

2023.01.26. 木曜礼拝 神のタイミングは常に完璧

エレミヤ 50 章

JD ファラグ牧師

天のお父さま、この日を感謝します。あなたが造られたこの日、私たちのために備えて下さったこの場所に感謝します。主よ、今晚私たちがここに来て、あなたの御言葉、エレミヤ書を掘り下げる機会を感謝します。主よ、私たちに語りかけ、私たちの心を整えてください。偉大なイエスの御名によって祈ります。アーメン。アーメン、アーメン。皆さん、こんばんは。皆さん、調子はどうですか？ よし。よい答えですね。来て下さり嬉しいです。オンラインの皆さんも参加して下さい嬉しいです。歓迎します。それでは、ここからが本番です。50 章です。いいですね、少し良くなりました。－（笑）－ いいですね、少し良くなりました。－（笑）－

皆さんは、天に宝がありますよ。よく言われるように、皆さんは打たれ強い人です。この章は、文字通り、いろいろな意味で懲らしめの章という感じです。でも、私たちはそれを乗り越え、本当に楽しみにしています。では、祈りましょう。神に私たちの時間を祝福して下さることを求めましょう。よろしければ一緒に。天のお父さま、本当に本当にありがとうございます。主よ、あなたのような方がいるでしょうか。主よ、木曜日の夜、共に交わり、礼拝し、みことばの教えのもとで過ごすこの時間は、私たちにとって本当に一週間のハイライトです。私たちはこの時間をとても楽しみにし、あなたが私たちに用意されるものを楽しみにしています。主よ、今夜、いやそれ以上に、私たちはあなたの聖霊に助けられ、教えられ、この章、特にこの章、そして主の御心なら来週の次の章を理解できるようになることを切に求めます。主よ、それは理由があってここに書かれていることを知っています。その理由を私たちと一緒に過ごす時間と御言葉の中で語って下さることも知っています。主よ、私たちはあなたに完全に集中したいです。なぜなら、世俗的なものであれ、神聖なものであれ、私たちの注意を引こうとするものがあまりにも多いからです。主よ、私たちは、あなたやあなたの御言葉から、あなたが今夜ここで私たちに用意されているあなたの御言葉から、何も注意を奪われないようにしたいのです。ですから主よ、あなただけがお出来になるようにお語り下さい。あなたはいつも忠実にそうしてくださいます。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

それでは、50 章と 51 章は、バビロンに対する預言です。このことを簡単に説明します。先週の 49 章の 1 章分に、5 つの国に対する預言と裁きがありました。今度は 1 つの国に、2 章分です。お気づきでないようですが、短い章ではありません。非常に長い章です。ですから、しばらくここにいることになります。皆さんが不意打ちを食らわないように、ちょっと準備を整えています。大きな章で、当然ながら、その必要があります。これらは、ユダが捕囚される前に預言されたバビロンに対する預言です。私がこのことを指摘したのは、特に 50 章において、神のタイミングが常に完璧であることが語られているからです。

「神は決して遅れないが、早すぎることもない」と言われています。真実を言えば、私たちは神にそうして欲しくないはずですが。なぜなら、神のタイミングは、神が正確な時、完璧な時を知っておられるからです。神の時は私たちの時は違い、神のやり方は私たちのやり方とは違います。神は必ず、神のご栄光のために、神のご方法で、神の時に、神がなさろうとしていることを行われます。もし私たちが神が知っておられることを知ったなら、神にそうしてもらいたいと思うでしょう。私がこう言うのに飽き飽きされないことを願いますが、祈りに関しては、もし神が知っておられることを私たちが知っていれば、私たちが自分の祈りに答えるのと同じ方法で、同じタイミングで、神はいつも私たちの祈りに答えてくださるこ

とを理解することが最も重要なことです。手短にもう一つ。「もう一つ」がさらにいくつかあります。ですから、ご辛抱ください。何年も前に聞いたある言葉が、私の心に残っていて、この点ではとても役に立っています。もしタイミングが間違っていれば、神は「ゆっくりしなさい」と言われます。もし要望が間違っているなら、神は「ダメです」と言われます。もし私が間違っていれば、神は「成長しなさい」と言われます。タイミングが正しく、要望が正しく、自分が正しければ、神は「行きなさい」と言われます。私たちは神に「行きなさい」と言ってもらいたいです。いわば、青信号が欲しいのです。しかし、時々、いや、ほとんどの場合、自分自身のことを話しますが、神は私たちに青信号を与えられません。神は黄色信号を与えられます。黄色信号の意味が分かりますね？ 速度を落とすのではなく...それが私たちのすることです。私たちはとてもせっかちになります。黄色信号/赤信号でも走ります。そして、私たちは神より先に進み、...自らの危険を顧みません。ここに証人はいますか？ ええ、良かったです。自分だけじゃないと確認したかっただけです。ここからが本題です。神が行われることを神が行われるとき、”とき”がキーワードです。それはいつも、「ああ、神様、ありがとうございます！」と言いたくなるようなものです。「ああ、主よ、ありがとうございます。そうです、あなたのタイミングは完璧です。あなたがもっと早くなさっていただければ、大惨事になっていたでしょうから！」

あなたは何度、自分の祈りのリストを見直し、自分が祈っているそれらの祈りに目を通したことがありますか。ちなみに、それは非常に良い事です。あなたはその祈りを見て、こんな感じです。

「ああ、神様、私が祈ったとおりにその祈りに答えてくださらなかったことを感謝します。あなたが答えてくれるようにと祈ったとき、あの時、あなたがそうなさっていたら...」神はこう仰るようです。

「分かっています。わたしはあなたにそう伝えようとしていました。ただ待っていなさい。主を待ち望みなさい。」主は、ご自分の時に、すべてのものを美しくしてくださいます。これから見るように、神はご自分の時に、ご自分の方法で、ご自分の栄光のためにバビロンを裁き、イスラエルを回復されます。さて、これが私の言いたいことです。ご辛抱ください。始める前に、「部屋の中の象」を（触れてはいけない話題）取り上げないのは非常に不注意だと思います。私はその象ではありません。その象とは、バビロンのことです。説明します。バビロンとは誰か、バビロンはどこにあるのか、聖書預言に関連して、多くの議論がなされています。これは、黙示録のさらに2つの章、7年間の患難の間に、宗教的バビロンと経済的バビロンを扱う黙示録17章と18章に特有のものです。そこで、多くの議論が交わされました。バビロンとは誰なのか？ バビロンはどこにあるのか？ それは、時に言われるように、システム、獣のシステムだけなのでしょう？ 違います。それが議論になります。エレミヤ書のこの二章と、イザヤ書も含む他の章の預言の具体性は、エレミヤ書の紀元前539年の歴史的成就に続く、まだ将来の成就を指し示しています。バビロンがメド・ペルシャ帝国に陥落した時点では、バビロンの完全な破壊を告げる預言はまだ成就していなかったからです。今夜はこの章を、そして主の御心なら、来週は51章を見ていきますが、この章は、このレンズを通して見てほしいのです。何のレンズか？ これは、バビロンが完全に破壊されるのはまだ先のことであるという具体的なレンズです。紀元前659年、メド・ペルシャがバビロンを占領して起こったことは、ここエレミヤの預言の具体性を満たさないで、ある一つの結論にしかありません。これはまだ成就されていません。バビロンに対する裁きの預言は、将来的に成就されるものです。このことは、実は聖書預言におけるバビロンに関するもう一つの議論と結びついています。それは文字通りのバビロンと、ひいてはバビロンの地理的な位置と関係があります。この点については、解釈というか、憶測に事欠かないことは、多くの方がご存じでしょう。「アメリカがバビロンだ」と指摘する人はた

くさんいます。エルサレムだという意見もあります。復活したローマ帝国というのが多数の見方だと思います。これは、学んだばかりの第一ペテロで、ペテロが「バビロンから書いている」と言及していることが一因です。そう言って最初の手紙を書いたとき、彼は実際にローマにいたと考えられています。だから、ローマはバビロンと呼ばれていたようなものです。しかし、問題があります。というのも、ペテロが「バビロン」と言ったとき、実はローマではなくバビロンにいた可能性、確率が高いからです。ショックなのはわかります。「私はバビロンからあなたに手紙を書いています。」ローマにいますか？「違います。バビロンにいます。そう言ったばかりでしょ！何が問題なのですか？」

今はすべてが寓話化され、靈的化されています。「いいえ、私はバビロンにいます。あなたに写真を送りますか…？」そんなことはできませんね。まだありませんから。さて、今夜も来週も、このことについて深く掘り下げるつもりはないことをご理解ください。しかし、この2章を読み進めていく中で、改めて、この重要性を理解することができると思います。つまり、過去におけるバビロンの歴史的な陥落は、今夜エレミヤ書で見ることになりますが、将来におけるバビロンの預言的な陥落を補強するものです。それを強化し、確証します。将来の7年間の患難の間のことです。さて、バビロンとは誰のことで、どこの国のことなのか？という質問です。ご自身で聖書を調べ、真理の御言葉を正しく識別するベレヤ人となることを強くお勧めします。興味のある方は、アンディ・ウッズ博士がバビロンに関する素晴らしい本を書いています。

彼は、バビロンが文字どおり現代のイラク、首都バグダッドから50マイルほど離れたシナル平原にあることを、“聖句から”説得力のある、しかも納得のいく形で論じています。

さて、私が聖書預言を研究し、聖書預言を教えてきた年月の中で、私はいつもイラク、特にバビロンに目を向けてきました。特にサダム・フセインが生きていた頃です。彼はすでにこのバビロン再建の取り組みを始めていました。実際、片面にネブカドネザル、もう片面にサダム・フセインが描かれたレンガがありました。巨大なビルボードがありました。見た記憶があるかもしれません。サダム・フセインが自らをネブカドネザル王になぞらえた巨大な看板があり、彼の夢は、古代バビロンの復興でした。実際に取り組みが行われていました。そして、少しずつ成果を上げてきました。しかし、悲しいことに、私たちはそこで何が起きているのかを知ることができません。このことが間もなく鍵となります。私は同意しがちですが、誰が誰に同意するかは重要ではありません。重要なのは、私たちは聖句と同意見なのか？だからこそ、彼は聖句から説得力のある主張をしていると言えます。ですから、これは現在、地政学的に起きていることを無理に文章にしたり、文章に入れたりしていません。聖書を読み、聖書を理解し、それをテンプレートにして、それから世の中で起きていることに重ね合わせます。

ちょっとだけ取りあげると...いや、たぶんそれは優しくないので、やめておきましょう。どうすればもっと愛情深く言えるのでしょうか？無理です。思いつきません。これは酷いです言い方が思いつきません。まあ、やってみましょう。黙示録17章と18章に登場するバビロンは、現代のイラクにある文字通りのバビロン以外の何物でもないと言う人は、非常に不誠実な人です。なぜなら、彼らはこんにちの地政学的状況を取り上げ、それを聖書箇所を重ね合わせているからです。そのようなことをすると、本文を誤って解釈し、聖句に取って代わってしまうという重大な誤りを犯すことになります。世界で起きていることよりも、聖句が優先されるべきです。なんだか先走ってしまいました。

古代バビロンが現代のイラクにあるという文字通りの解釈は、多くの人が問題視していることに気づきました。しかし、1948年以前は、イスラエルが文字通りの存在であることに関する預言的な解釈も同じ

ように捉えられていたことを、私は謙虚に思い起こさせていただきます。その結果、どうなったかは知っていますね？ つまり、考えられないことでした。

「まさか。文字通りの意味ではない。」だから靈的化したのでしょうか。

「それは寓話であり、比喩であり、靈的なものに違いない。それは靈的なイスラエルだ。イスラエルの靈的な再生だ。」

いや、私にはあなたが約束の地を見て、ユダヤ人を見ているように聞こえます。ところで、ホロコーストに続いて、まさか、と思っているあなた。いいえ、そのまさかです！

「イスラエルが古代の故郷に戻り、国家として生まれ変わるというのは、文字通りの意味だと聖書は語っていると言うのですか？ イザヤ書ではそのように預言していますし、預言書にはイスラエルの帰還に関する預言がたくさんあります。そして、福音書の中で救い主が言及しているのも確かです。しかし、1948年以前は、どうしてそうなるのかがわかりません。聖書がそう語っているのは知っていますが、どうしてそんなことが可能なのか、私にはわかりません。」

それは私たちがバビロンでやっていることじゃないですか？

「まさか！イラクがバビロンになる？ ニューヨークから全部移すんですか？」

「ジュネーブから全部移動させるんですか？」ええ、そんなことはあり得ないと思いますか？ まあ、1948年以前にあなたが生きていれば、まず第一に、あなたは高齢です。もしあなたが1948年以前に生きていたなら、... 恐ろしいですね。私は本当に...。ここでやめて、先に進んだほうがいいですね。賜物なんです。

この章では、神のタイミングが常に完璧であることを語っていることに、私は実際に気づかされました。皮肉なことに、文字通りの解釈の難しさの多くは、現在のイラクが地政学的に取るに足らない存在であることを理由に、神の預言の時間時計を遅らせているように見えることです。だから、あり得ないことなのです。だから、イスラエルが1日で国家として復活するというのは、1948年以前は考えられなかったことです。

「これはきつと....、確かにこれは靈的なものに違いない....」

「文字通りの意味はありえないので、靈的に理解する必要がある。」

おお、それはあり得ます。それは起こりました。このように、文字通りのイラクを想定できないことを重ね合わせるのは、やはり私たちのタイミングが神のタイミングではないことを考えると、大きな誤りです。一緒によく考えてみてください。非常に注意して聞いてください。私は本当にこのことについて今日考えていました。この3年間で起こったことの早さを考えれば、こんなことすぐに起こり得ると思いませんか？ だってそれが問題なんですよ？ タイミングの問題です。タイミングの問題を問題にしている方、バビロンの再建は、エルサレムの第三神殿の再建と同じように、速やかに行うことができると思います。間違えてはいけません。さらに言えば、聖書には終わりの時代の出来事の早さについての詳細がたくさん書かれています。それは産みの苦しみの例えによって証明されます。これは使徒パウロの言葉であり、さらに重要なことは、救い主ご自身の言葉です。聖書預言は、陣痛中の女性と、より頻繁に、より速く、より激しくやってくる陣痛を連想させます。私がかれを話すのを聞いたことがあるはずですよ。皆さんもご存じだと思いますが、『黙示録』の中で、イエスは何度か「見よ、わたしはすぐに来る」とおっしゃっています。この「すぐに」という言葉は、自動車に搭載されているタコメーターの英語表記であるRPM（1分あたりの回転数）に由来しているのです。つまり、物事がどんどん加速していきます。こ

の3年間を振り返ってみると、2年間ではありません、先週もこの話をしましたね。3年どころか、1年でこんなに早く変わるのかと思うほどです。あっという間にすべてが変わってしまい、二度と元には戻りません。イスラエル国家再建にさかのぼると、イザヤはこう預言しました。

「国は一日で生まれるだろうか？」(イザヤ 66:8)

実際に、そうです。文字通り、そうです。1948年5月14日にその預言は成就しました。チェックボックスにレ点を入れてください。

「つまり、文字通りのバビロンに関するこの預言は、成就する可能性があるということですね？」

そうです、それを確認するためにペンを用意しておきましょう。いや、チェックするためにここにはいないはずですよ。ここにはいない方が良いでしょう。これは携挙の後の、患難時代のことです。これに関してもう一つ。急いだほうが良いでしょう。これは、私が長年続けている聖書預言を教えることに関連した、より個人的なメモです。これに関して、私の心にあることを聞いてください。

聖書預言に関しては、長年にわたり、神は私の人生に深い働きかけをしてくださいました。このように、聖書預言、聖書預言を教えるときには、その情報から適用が生まれなければなりません。同じことを別の言い方で言わせてもらおうと、聖書預言を教えるとき、私はここに立つことができますが、おそらく他の人と同じようにこのような罪を犯してきたことでしょう。ここに来て、まるでホースの水を飲んでいるような感覚になることがあります。私はただ預言的な聖句を並べて、預言的な点をつなげようとしています。そして、結局それはただの情報に過ぎないのです。神がこの点で私の人生にしてくださったことは、私がただ神の御前に静まり、神を慕うようになり、今夜のように教える聖書預言は、明日の朝、目覚まし時計が鳴ったときに、どのように適用されるのか？ と考えるようになったことです。もしそこに適用がないなら、すべては情報になってしまいます。私は皆さんに大きな損害を与えてしまいました。それどころか、皆さんの時間を無駄にしたとさえ言えるでしょう。なぜなら、皆さんの多くは、私と同じように、ここで現実的な問題を体験しているからです。先週参照したシリアのダマスカスに関するイザヤ書17章の預言の教え、あるいは今夜のエレミヤ書50章のイラクのバビロンに関する預言、これは素晴らしい情報です。わくわくします。しかし、それがなぜ、そして私と何の関係があるのでしょうか？

なぜなら、明日の朝、その目覚まし時計が鳴ったとき、私は自分の人生の中で本当に深刻な問題に直面しているからです。これがどのように役立つのかを知る必要があります。神は私に何を見させようとしておられるのでしょうか？ これが私の人生にどう適用するのでしょうか？ そのため、私は最近、当然といえば当然なのですが、やり方を大きく変えました。つまり、聖書預言を教え、説明することは常に、預言の御霊であるイエスの証しとして、私たちの人生にそれを適用することを目的としています。

ちなみに、日曜日の預言アップデートのタイトルは、主の御心なら、ヨハネの黙示録19章11節からです。それは常にイエスに近づけるはずですよ。それは常に...イエスは預言の御霊です。それが預言の目的です。預言の目的は、イエス・キリストという人物を私に指し示すことです。もし預言の教師がどんな種類の預言の教えをしても、それが行われなければ、それは預言の御霊ではありません。すべては情報に過ぎません。ここで私は医者から身辺整理が必要だとの診断を受けたとします。妻から別れを告げられ、二度と会いたくないと言われたばかりです。この預言の話をしたいですか？

「イエスさま、助けてください。イエスさま、助けてください。」

知識は単なる情報ですが、知恵はその情報を適用することだと言われています。これは神の御言葉を適用することです。ヤコブが語っているように神の御言葉を行うことです。(ヤコブ 1:22)

これは、イエスがあの二人の建築家のたとえで言われたことで、神の御言葉を実践すること、神の御言葉を適用することです。(マタイ 7:24)

私たちは今夜、過去と未来のバビロンに関するこの預言を目の前にしています。すべての神の御言葉には、理由があります。神がエレミヤ書をあと何章か埋める必要があるわけではないのです。違います、これは理由があって書かれています。その理由は何か？ 神は私の人生に何を語ろうとしておられるのか？ これは私の人生にどう適用するのか？ だからこそ、私はより敏感になっているのだと思います。私たちの人生への適用には、とても敏感です。では、これをどう適用するのか？ この章の理由のひとつには、たくさんありますが、しかし、私たちの聖書にこのような章がある理由の一つは、来週、私たちの聖書にこの章、51章にある別の理由を見ていきますが、これは、神がこう仰っているのだと私は本当に信じています。「わたしは自分が何をしているか知っている、わたしのタイミングは完璧です」

なぜなら、この預言が書かれた時は、ユダが捕囚になる前のことだと理解しなければならないからです。想像してみてください、すぐにこの章に取り掛かり、見ていきますが…もう祈りで締めくくる時間ですか？ まだですね。その時が来たと悟ったとき、彼らがどれほど勇気づけられたか想像できますか？ なぜなら、490年間、土地に安息日を与えなかったという70年間の負債を神に負っているためです。70年という時間軸があります。そして、その70年が完了すれば、終わりです。神のタイミングは完璧です。7は完全数です。私たちをバビロンに捕囚させることで、成し遂げようとされたことを完成されました。では、これは非常に長い導入でした。皆さん大丈夫ですか？ それでは、1節。準備はいいですか？ さあいきましょう。

—エレミヤ 50:1—

主が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデア人の地について語られたことば。

—エレミヤ 50:2—

国々の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。ためらってはならない。『バビロンは攻め取られた。ベルは辱められ(彼らの神々の一つです)、メロダクは打ちのめされた。…

これも彼らの神々の一つです。自分の神が壊れるようでは困りますね。言ってみただけです。

…その像は辱められ、その偶像は打ちのめされた。』

—エレミヤ 50:3—

まことに、北から一つの国がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。

4節に注目してください。

—エレミヤ 50:4—

その日、その時…

これです。あと何回か出てきます。その日、その時…言い換えると、「時間切れです。その日がやって来ました。」

…—主のことば— イスラエルの民もユダの民も、ともにやって来る。彼らは泣きながら歩みつつ、その神、主を尋ね求める。

—エレミヤ 50:5—

彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは主に連なろう。忘れられることのない永遠の契約によって』と。

すごい！ 任務完了です。教訓を学びました。教訓とは何か？

「ああ、ユダよ、あなたは偶像を愛しているようだ。偶像が好きなんですね？ あなたを世界の偶像の都、バビロンに送ります。あなたは偶像でいっぱいになるでしょう。そして、その時が来たとき、あなたは、偶像と完全に決別することになります。そうして、泣きながら主に懇願し、主を求め、主に「帰る道はどこですか」と言うようになります。70年前はそんなこと言ってませんでしたね。実際、わたしの勘違いでなければエレミヤにこのことを尋ねました。偶像のこと、偶像崇拜のこと、それがバビロンに捕囚された理由だと伝えようとしたとき、それはバビロンが神の民に対する神の懲らしめの道具であると、はっきりと告げました。」

そのことを間もなく見ていきます。そして、それは上手くいきます。そのときが来れば、あなたは偶像と関わりたくないと思うようになるでしょう。興味深いのは、バビロン捕囚以降のイスラエルの歴史に偶像礼拝は存在しなかったということです。その時が来ます。「もう準備はいいですか？」はい。

「なぜなら、70年前、あなたはエレミヤに、そんなこと起こらないよ、と書いていたからです。すべての偽預言者はエレミヤをあざけり、嘲笑し、脅迫し、『あ～、あの悲観的な預言者の話は聞いちゃいけない。我々はバビロンに連れて行かれることはない。そんな馬鹿な。』

今はそんなこと言いませんね？」「言いません、すみません。ごめんなさい。」ここには悔い改めがあったのです。ここで転機がありました。

—エレミヤ 50:6—

わたしの民は、迷った羊の群れであった。…

これは悲しく、心が痛みます。

…その羊飼いたちが彼らを迷わせ…

私も含め、すべての牧師はこの聖句に深く立ち止まるべきです。私たちは立ち止まる必要があります。これは、ヤコブが牧師や教師がより高い基準で裁かれることについて言及したものです。(ヤコブ 3:1)

…その羊飼いたちが彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡り、休み場も忘れた。

—エレミヤ 50:7—

彼らを見つける者はみな彼らを食らい、彼らの敵は言った。『私たちには責めはない。彼らが、義の住まいである主、彼らの先祖の望みであった主に対して罪を犯したためだ』と。

おお、そうですか？ 最終的には神が決定権を握っておられます。冒頭でも触れましたが、これがこの時、ユダにどれほどの希望を与えたか、想像できますか？ 今、70年の時が経ち、神がこう言われます。

「よし、これで終わりです。70年の歳月が満たされた。その日が来ました。わたしはバビロンを裁き、あなたを元に戻します。」

そうしてくださるのですか？「はい。」「エレミヤは70年前から伝えようとしていました。巻物に記録された預言は、すべてあなたが持っています。あなたは耳を傾けなかったが、しかし今は、これがいのちであり希望です。これはあなたへのいのちのことばです。これがあなたの希望です。神はあなたを回復させられます。」

これは非常に励みになったでしょう。ここが私が言いたいところです。手短に。これは私たちに適用します。どうやって？ 私たちはこの世界にいますが、神の預言のことば、神の約束があります。

「わたしはあなたをこの世から救い出します。その時が来れば、あなたを世界から連れ出します。その日はやって来ます。その日、わたしはあなたを連れ出します。元気を出しなさい。」

「これらのことばによって互いに励まし合いなさい」とパウロがテサロニケ人への手紙 4 章で携挙に関して書いています。「あなたは強くあって、主を待ち望み、心を砕き、失望しないでください。あなたの希望、あなたの祝福された希望、あなたの唯一の希望はここに 있습니다。わたしはあなたを救い出します。」

ああ、これはぴったりの言葉です。このタイミングは完璧だったでしょう。これを聞きたいまさにその時に、これこそ神が彼らにしてくださることです。そして、神は私たちにもこのようなことをしてください。

—エレミヤ 50:8—

バビロンの中から逃げ、カルデア人の地から出て行け。群れの先頭に立つやぎのようになれ。

—エレミヤ 50:9—

見よ。わたしは、大国の集団を奮い立たせ、北の地からバビロンに攻め上らせる。…

また具体的です。

…彼らはこれに向かって陣備えをし、バビロンはそこから攻め取られる。彼らの矢は熟練した勇士の矢のようで、空しくは帰らない。

—エレミヤ 50:10—

カルデアは略奪され、これを略奪する者はみな、満ち足りる。—主のことば。

かなり強い言い方ですね？ バビロンを略奪する者を神が満足させるという印象を受けませんか？ わお…これは興味深いです。いや、これから見るように、彼らは神の民を虐げていたからです。

—エレミヤ 50:11—

わたしのゆずりの地を略奪する者たちよ。(バビロンのことです) おまえたちは楽しみ、喜び踊り、打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにながれ、…

「あなたにはうんざりです。」おっと、すみません。そんなことは書かれていません。

—エレミヤ 50:12—

おまえたちの母は…

おお、母を巻き込むのですか？ そうです。

…ひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。

—エレミヤ 50:13—

主の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。

バビロンは、神の民を裁く道具として過度の喜びを感じていたため、神の怒りの対象となったことに、一緒に注目ください。彼らは楽しみ過ぎました。楽しみ過ぎて、やりすぎてしまいました。また、このことは、この世界における終わりの時代に、クリスチャンである私たちにとって、大きな励みとなるはずで、私たちはこの世のものではなく、長居してしまったこの世は私たちの家ではありません。神は、私たちがどのように扱われるかに注目されます。もし彼らが喜びを感じるなら、神はバビロンにしたように、そのことについて最終的な判断を下されるでしょう。

—エレミヤ 50:14—

すべて弓を引く者よ。バビロンの周りに陣備えをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女が主に対して罪を

犯したからだ。

わお...！ これは神の民に対するものだと思っていました。「違います。これはわたしに対するものです。」ローマ書にこうあります。

「もし神が私たちの味方なら、誰が私たちに敵対できるでしょうか」(ローマ 8:31)

それはどちらにも言えることです。もし神があなたに敵対するなら、誰があなたの味方となるでしょう？これは修辭的ですが、答え：だれも。あなたは終わりです。おしまい (Toast) です。大文字の「T」で。なぜなら、あなたは主に敵対しているからです。

—エレミヤ 50:15—

その周りで、ときの声をあげよ。彼女は降伏する。その柱は倒れ、その城壁は壊れる。…

このため、まだ将来の成就であることがわかります。なぜなら、メド・ペルシャがバビロンを占領したとき、城壁は残ったからです。実際、彼らはバビロンで再集結しました。ところで、この壁が、なんと...！つまり、…これは3、4階建てに相当すると言いたいです。しかも、城壁の幅だけで戦車レースができるほどの広さです。とにかく、私がこれを話したのは…なぜこの話になったのでしょうか。想像できますか？ここにこの預言があり、私たちはただ、一発でバンっと。投げ出され、打ちのめされます。いや、でもあの城壁が見えたら？「ああ、これは文字通りの意味じゃない。」文字通りです。そうなります。

…これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。(聞いてください) 彼女がしたとおりに、これにせよ。

—エレミヤ 50:16—

種を蒔く者や、刈り入れの時に鎌を取る者を、バビロンから断ち切れ。虐げる者の剣を避けて、人はそれぞれ自分の民のもとに帰り、自分の土地へ逃げて行く。」

それは今に始まったことではありません。

—エレミヤ 50:17—

イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリアの王がこれを食らい、今度はついに、その骨をバビロンの王ネブカドネツアルが食らった。

ちょっと待ってください。バビロンの王ネブカドネツアルを選んだのは、あなたの民をこのようにするためでは？「ええ、でもそれは違います。彼はわたしの手の中にある道具でしたが、彼はそれをやり過ぎました。」

—エレミヤ 50:18—

それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはアッシリアの王を罰したように、バビロンの王とその地を罰する。」

しかし...これがどれほど彼らに希望を与えたことでしょうか。

—エレミヤ 50:19—

わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、エフライムの山とギルアデで満ち足りる。

わお...！ いつですか？ 今です。本当ですか？ わお...！ ここでもう一度出てきます。20節。

—エレミヤ 50:20—

その日、その時 —主のことば— イスラエルの咎を探しても、それはない。ユダの罪も見つからない。わたしが残す者を、わたしが赦すからだ。」

待ってください。主の御心なら、来週は51章ですが、イスラエルの罪についてさらに詳しく読んでいき

ます。罪がこの地に満ちているというイメージ、表現です。罪はそこに溢れかえっていました。しかし神は、彼らを赦されました。ここでは、罪の咎を表しています。探し出され、「イスラエルの咎のファイルを引っ張り出してみよう。」空っぽです。そこには何もありません。ないものとされます。なぜか？

「わたしは彼らを赦したからです。彼らを赦しました。わたしは彼らを回復させます。」

神は赦しの神であられ、回復の神、憐み深い神であられます。これは1度で2度お得です。こんな風に言ってもいいですか？ もう言ってしまいました。気にしないでください。二度おいしいということです。バビロンへの裁きとイスラエルの回復が同時に描かれています。神がそうなさるのが大好きです。こんな言葉もありますね。あまりいい比較ではないかもしれませんが、「一石二鳥」です。ええ、それが神が同時になさっておられることです。

ーエレミヤ 50:21ー

「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、聖絶せよ。一主のことば一すべて、わたしがあなたに命じたとおりに行え。

ーエレミヤ 50:22ー

その地には戦いの声、大いなる破滅。

ーエレミヤ 50:23ー

全地を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ。どうして国々の恐怖のもととなったのか。

ーエレミヤ 50:24ー

バビロンよ。わたしがおまえに罠をかけ、おまえは捕らえられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つけられて捕まえられた。主に争いを仕掛けたからだ。

これは意図的なものです。彼らは自分たちのしていることを分かっていました。彼らは、自分たちが何をしているのか、とてもよく理解していました。彼らは主に背き、主と争っていました。そこで主は…、これはすごいです。25節、神から与えられた想像力を本当に働かせてみてください。

ーエレミヤ 50:25ー

主はその倉を開き、その憤りの武器を持ち出した。

これは神の武器庫であり、全ての武器を備えた武器庫です。武器庫とは全ての武器があるところですよ。すみません、大変な一週間だったんです。

ーエレミヤ 50:25ー

主はその倉を開き、その憤りの武器を持ち出した。それは、カルデア人の国での、万軍の神、主の仕事だ。

このことを振り返りつつ、考えていたところです。私がまだ、キリストにある新しい赤ん坊だったとき。私は自分の人生を主に捧げたばかりでした。私は生まれ変わったばかりで、神の御言葉に満足していませんでした。聖書を持っていなかったのですが、買ってきて、手放せなくなりました。そして、最後まで読みました。創世記から始めました。私はアパートで独り暮らしをしていました。エレミヤ書50章と51章まで読んだときを覚えています、実際にはこの書全体を。もちろん、私は白紙の状態ですから、何もわかりません。もちろん、後になって、キリストにあって成熟し、恵みと神の御言葉の知識において成長するにつれて、私は学ぶことになるのですが。初めて読みながら私は、「おお！おお…！」「神がこんなに怒っているのだから、よっぽど悪いことをしたに違いない。」それが、その時の私の教訓だったのでしよう。彼らは悪い事をしたのです。これは本当に悪いことで、だから神は本当に怒られたのです。

神の正しい御怒りと呼ばれるものです。正義であり、公正であり、公平です。26 節からが前置きで、もっと悪いことが書かれているからです。

ーエレミヤ 50：26ー

四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。

ーエレミヤ 50：27ー

その雄牛をみな滅ぼせ。屠り場に下らせよ。わざわざいだ（呪われよ）、彼らは。…

…（ここでもう一度出てきます）彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。

神のタイミングです。

ーエレミヤ 50：28ー

バビロンの地から逃れて来た者の声とする。シオンで、私たちの神、主の復讐のこと、その神殿の復讐のことを告げ知らせている。

ーエレミヤ 50：29ー

バビロンに対して、射手を呼び集めよ。すべて弓を引く者を。これを囲んで陣を敷き、一人も逃すな。…
わお！ これは私には、デジャブの繰り返しです。彼らはユダの周囲に陣取っていました。今また、彼らは陣を敷くこととなります。これまで無敵だったバビロンにとって、これは非常に異質な領域であり、誰も挑戦することすらできませんでした。しかし、これが起こります。

…その行いに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。（注目ください）主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。

高慢、墮落、傲慢、破滅。その繋がりが分かりますか？ 例外はありません。

ーエレミヤ 50：30ー

「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。一主のことばー

ーエレミヤ 50：31ー

高ぶる者よ。見よ。わたしはおまえを敵とする。一万軍の神、主のことばー…

ここでもう一度。

…おまえの日、わたしがおまえを罰する時が来たからだ。

もう一度、適用すると、私たちはこの反対側にいます。私たちは神の民、残された者です。私たちは神の民です。その日が来れば、私たちを救い、回復させ、救出し、連れ出してくださいます。その時は必ず来ます。それは私たちを罰するためではありません。私たちを救い出すためであり、彼らを罰するためです。

さて、補足的に触れておきます。以前にもお話ししましたが、もう一度、私の心の内を聞いて下さい。そこには、聖なる強さがあります。なぜなら、彼らは自分たちの報いを受けると知っているからです。なぜなら今彼らは…かなり傲慢で、「彼らはかなり傲慢ではありません。彼らとは誰ですか？」おお、主に敵対している者です。聖書預言アップデートでお話ししました。先週の「世界の共通項」は、すべての国が主に対して怒り狂うということです。彼らは、神に対する高慢で傲慢なプライドの中で、陰謀を企て、謀略を巡らせます。そして、その日はやって来ます。待ちきれません。このようなことを言うたびに非難されるのは承知していますが、別に良いです。私は最前列の席の予約を主にお願いしているんです。

言ってみただけです。ただ私のために祈ってください。分かっています、これは本当に...「恐ろしい、愛のない牧師だ」と言われても何でもいいです。ええ、あなたたちも同じことをしますよ。私の後ろの列に座ってもらうことになるけど... — (笑) — ちょっと待ってください。いや、これには聖書的な...

この缶を開けるべきではなかったですね。しかし、聖書的な根拠があります。神の民が、全能の神の義と正義の裁きを見る場面です。私たちは、事実上、最前列の席を確保することになります。なぜなら、その時... その時が来たら、彼らがただ神を讃えるのを私は想像します。彼らはただただ、「神様、感謝します。」彼らは神を礼拝し、賛美します。「神様、感謝します！ あなたが最終決定をしてくださいました。その時が来ました。」

一時期は、このまま逃げ切るのではと思えることもありました。でもあなたは、… あなたは時間通りであられます。ほら、私たちのタイミングだったら、やっていたかもしれません。まあ、私なら間違いなく2020年にやっていたでしょう。皆さんもそうでしょう...？ 何人かの方は2019年かもしれませんね。

「時間切れです。おしまい。終わり。おしまいです。その日が来ます。」

違います。しかし、主のタイミングは完璧です。主よ、今年が良いではありませんか、私はただ、提案として、神が私の提案を受け入れられるとは限りませんが、分かりませんから。さて、どこまで話したでしょう？ もう少しで終わるので、頑張ってください。

—エレミヤ 50:32—

そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町々に火をつける。火はその周りのものすべてを焼き尽くす。」

神はこの世界を火で滅ぼされます。ペテロの手紙でそのことを見ていきます。

—エレミヤ 50:33—

万軍の主はこう言われる。「イスラエルの子らとユダの子らは、ともに虐げられている。彼らを捕らえて行った者はみな、彼らを固くつかんで解放することを拒んでいる。」

ああ、これってエジプトのファラオを彷彿とさせます。いい結末にはなりませんでしたが。ああ、なるほど。まあ、そのことについては神に答えなければならないでしょう。彼らはそうしました。

—エレミヤ 50:34—

彼らを贖う方は強い。その名は万軍の主。主は、必ずや彼らの訴えを取り上げて、その地を慰ませるが、バビロンの住民は震え上がらせる。

この預言とこの箇所では、ユダやイスラエル人が自分たちで復讐をするという記述はないことに注意してください。復讐は主のもので、神を助けようとしなさい。そうしたいのは分かりますが。私も同罪です。「神よ、さあやりましょう」「いや、いや、わたしがします。」「ええ、でも、いつですか？」「わたしのタイミングで。」「でも、今してください。」「いいえ。」「手伝ってもいいですか？」「ダメです。」「そこにいてもいいですか？」「良いでしょう。場合によりますが。わたしが対処します。わたしが罰します。なぜなら、あなたの復讐は…」

「目には目を、歯には歯を」というのは、五書、律法からきていますね。そして、イエスがそれを繰り返され、ある種のハードルを上げ、実際にはハードルを投げ捨て、こう言われました。

「目には目を、歯には歯をとりますが、しかし、わたしはあなたがたに言います…」

(マタイ 5:38, 39)

これが起こっていたことです。誰かが歯を1本折ったら、すべての歯をへし折ろうとしました。あなた

の片目が打たれたら、両眼を打ってやると。それが私たちの復讐です。不公平です。私たちは、ただ仕返しをしたいのではなく、ひとつ上を狙いたい。なるほど、非常に罪を示されるので、これについては以上です。

—エレミヤ 50:35—

「剣がカルデア人に下り、一主のことば— バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。

—エレミヤ 50:36—

剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは気をくじかれる。

—エレミヤ 50:37—

剣が、その馬と車、そこに住む混血の傭兵にも下り、(大勢いました) 彼らは女たちのようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。

—エレミヤ 50:38—

日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこには刻んだ像の地で (世界の偶像礼拝の都)、偶像に狂っているからだ。

わお...! 彼らは偶像礼拝に狂ってしまったと書いてあります。彼らは正気じゃありません。これは狂気の沙汰です。

—エレミヤ 50:39—

それゆえ、荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もはや永久に、人は住まず、代々にわたって、住む者はいない。

—エレミヤ 50:40—

神が、ソドムとゴモラと、近隣の町々を滅ぼしたように、一主のことば— そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。

—エレミヤ 50:41—

見よ、一つの民が北から来る。…

この具体的な内容は、もう3回目か4回目になりますね。

…大きな国と多くの王が、地の果てという果てから奮い立つ。

メド・ペルシャのある東洋だけでなく。

—エレミヤ 50:42—

彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれむことがない。…

あわれみは相互的なものです。聖書全体の中で、最も間違っ引用される節の一つは、

「金銭を愛することは、あらゆる悪の根だからです」「金銭は、」ではありません。(1テモテ 6:10)

イエスはこう言われました。「もしあなたが憐れみ深いなら、あなたが使う憐れみの尺度は、あなたに使われる憐れみの尺度になる」

「もしあなたが憐れみ深いなら、あなたは憐れみを示され、詰め込まれ、溢れながれます。」

これはお金の文脈ではありません。憐れみの文脈での話です。(ルカ 6:38)

そして、ただ腹が立つのは、テレビ伝道師がいて、この御言葉を使い、人々からお金を得ようとするからです。

「もしあなたが神に捧げるなら、神はあなたに報い、詰め込み、揺すって入れ、溢れ出るようにされます。」

上手すぎたかもしれませんね。本当ですか？ これはお金ではなく、憐みのことです。私が憐みを示すなら、憐れみを受ける側になります。それは相互の関係です。あなたが憐れまなかつたので、憐みを受けることはありません。あなたは憐みを示さなかつたからです。

…残忍で、あわれむことがない。その声は海のようにとどろく。娘バビロンよ。彼らは馬に乗り、一つとなって戦列を整え、おまえを攻める。

—エレミヤ 50:43—

バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて気力を失い、苦しみが彼をとらえる。産婦のような激痛が。

—エレミヤ 50:44—

見よ。獅子がヨルダンの密林から常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。…

…だれがわたしのようであろうか。(これは神が語っておられます)だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる牧者であろうか。」

神がこうなさる時が大好きです。ところで、修辭的ですが、答えは、だれも。だれもいません。

—エレミヤ 50:45—

それゆえ、聞け。バビロンに対して立てられた主の計画を。(これは重要です)カルデア人の国に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。

—エレミヤ 50:46—

バビロンが捕らえられる音で地は震え、その叫びは国々の間にも聞こえる。

国々。「イスラエルよ、聞け。主の計画を。もしあなたが聞くなら、カルデアの地に対して立てられた主の目的が何であるかを聞くことになるでしょう。」

さて、目的とは何でしょうか？ このように、この章は時代を超えた言葉で終わっています。それは、当時と将来の両方において、神が完璧なタイミングでバビロンに下した裁きによって、全世界の人々が神の御言葉を聞くことができるようにするためです。それが目的です。そのタイミングも目的です。その時代、その日、その時に起こることだからです。すべての国々が知ることになります。その叫びは、国々の間で聞かれます。エゼキエル 38 章は、一般にゴグとマゴグの戦いと呼ばれる北からのイスラエルの侵略に関する非常に有名な預言です。その目的をご存じですか？ その章の最後のほうを読むと、実際には、エゼキエル 38 章の最後の節かもしれません。その目的は、地上のすべての国々が「わたしがあなたの神、主である」ということを知るためです。分かりました。それが目的だったのですか？ そうです。それが理由ですか？ そうです。だからこうなされたのですか？ そうです。すべての国々が知るためです。

ああ、私は時計が大嫌いです。もう一つ話してもいいですか？ 分かりました。「地は震える」これは、『ヨハネの黙示録』の終わりの時に出てくる言葉です。その時は必ずやって来ます。その日はやって来ます。すべての国々が、すべての膝が屈します。すべての舌がイエスは主だと告白します。唯一の問題は、告白が救いではなく、刑罰に至るということです。私たちが膝をついて、舌で、イエス・キリストは主であると告白するとき、それは救いのためです。しかし、この時、その時が来れば、それは刑罰のためです。疑問の余地はありません。地上のすべての国々が知り、震えます。もう一度言いますが、すみません、待ちきれません。主よ、早く来て下さい。では、カポノ、早く上がって来て下さい。 — (笑) —

皆さん、お立ちください。祈りましょう。皆さんの忍耐に感謝します。皆さんは本当に優しいです。この

章に最善を尽くしました。ややこしいものでしたね？ 大丈夫ですか？ 良かったです。
天のお父さま、感謝します。これは大変ですが、良いことです。主よ、ただあなたの御言葉に感謝します。
これほどまでに力強い聖書預言に感謝します。私たちの生活に適用してくださることに感謝します。
主よ、あなたのタイミングがいつも完璧であることを、本当に必要なこととして思い出させてくださったことを感謝します。その日は近く、非常に近いと私たちは信じています。その時が来て、「時間切れ、時間切れです」となります。その日が来ます。その日、その時間が。主よ、私たちはそれを切望し、求めます。私たちは、あなたが弟子たちと一緒に上の階の部屋で過越の祭りを祝ったときに言われたように、また来週聖餐式でお祝いするように、熱心に、切に願っています。主よ、あなたは2度おっしゃいました。あなたの御国で、このことが究極に成就するとき、もう一度共に食事をすることを切に願い、待ち望んでおられると。それが私たちの楽しみであり、私たちの結末でもあります。主よ、感謝します。この励ましを心に刻み、私たちの心を強くし、勇気づけられることを祈ります。主よ、感謝します。私たちはあなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7